

「備えあれば憂いなし」

もしもの原発事故に 命守る「安定ヨウ素剤」を

4日、9月定例会が開会。令和元年度の各会計決算議案と共に「彦根・犬上・愛知 原発のない社会をつくる会」から提出（建部議員、西澤議員の紹介）された請願書を西澤議員が提案理由を説明。賛成8、反対2で可決。建部議員は「原発事故の可能性は否定できない以上、備えあれば憂いなし」（要旨）などと賛成討論をおこないました。《請願文内の小見出しは編集者》

甲良町の教育施設などと全家庭に 安定ヨウ素剤の事前配布を 求める請願

<請願趣旨>

現在、全国で再稼働している9つの原発のうち4つは隣の福井県にあります。高浜原発の3号機と4号機、大飯原発の3号機と4号機です。これに加えて、関西電力は今年中に、3つの老朽原発、高浜1号機（運転歴45年）、高浜2号機（同44年）、美浜3号機（同43年）を再稼働させる準備をしています。

仮に、大飯原発で過酷事故が起きて放射性物質が放出されると、風速4m/sの西風が直進で吹

いている場合、甲良町には4.6時間で同物質が飛んできます。その中には、甲状腺ガンを引き起こす「放射性ヨウ素」が含まれています。

服用すれば、甲状腺ガン予防に

ただ、適切な時期に安定ヨウ素剤（ヨウ化カリウム）を服用すれば、甲状腺ガンになることを相当程度に防ぐことが出来ます。原子力規制庁の解説書によれば、放射性ヨウ素を吸入する前24時間から吸入した後2時間までに同剤を服用すれば90%以上のガン抑制効果があります。服用が24時間後になれば、その効果は7%に急減します。

子どもは発達が早い分、放射能の影響を受け易いと言われています。チェルノブイリや福島では、同剤を服用しなかった多くの子どもが甲状腺ガンにかかっています。一方、3303世帯のうち3134世帯に安定ヨウ素剤を事前に配布した福島県の三春町では、甲状腺ガンの発症が殆どなかったと報告されています。

副作用より内部被爆のリスク大きい

同剤の副作用について、原子力規制庁の「解説書」は「副作用の心配はほとんどない。副作用による健康影響へのリスクよりも、放射



性ヨウ素による甲状腺の内部被曝のリスクの方が大きい」と述べています。また、安定ヨウ素剤は1粒10円以下で購入でき、町財政の大きな負担にはなりません。

原発の賛否ではなく放射能から命守る優先を

原発そのものには賛否両論があります。しかし、原発事故と放射能放出の可能性がある以上、放射能から町民の命や健康を守ることは、すべての住民の願いであり、地方議会の大事な役割だと考えます。

町民、特に子どもの健康と命を守るために、貴議会に、以下のことを請願します。

<請願事項>

甲良町の教育施設など（幼稚園、保育園、小学校、中学校など）に安定ヨウ素剤を事前に配布すること。また、全ての家庭に安定ヨウ素剤を事前に配布すること。

甲良民報

2020年9月6日 802号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在士373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご意見・ご要望をどうぞ。

☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
©日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】